

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	京都大学	整理番号	K02
プログラム名称	デザイン学大学院連携プログラム		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラム コーディネーター	石田 亨
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野を横断する「体系的コースワーク」と問題発見・問題解決の「実践プログラム」の充実、異分野の学生や外国人・企業人とのプロジェクトを通じた活発な交流、「複数アドバイザ制度」の充実化など、組織的な指導体制が整備され、計画が確実に実施されて教育効果をあげている。 ・コースの途中に進路を熟考させる期間を設けるなどの工夫により、プログラムに参加する学生の増加がみられ、優秀な学生の確保についても成果をあげている。また、社会の求める人材との適合性をチェックするための「デザインイノベータインデックス」を設定し、学生の成長を可視化してプログラムの効果を計測する取組がなされている。 ・「デザイン学の確立」については、「デザイン学」を共通言語としたデザイン学共通科目の設置、教科書シリーズ（デザイン学概論）及びデザイン学論考の発刊を行っているほか、海外の複数大学との緊密な連携による「デザイン学の国際標準カリキュラム」の確立を模索するなど、順調に進展している。 ・育成するリーダー像の明確化、複数アドバイザ制度の更なる充実化、国際ネットワークの更なる強化など、中間評価の留意事項への対応が適切かつ真摯になされている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は更に、学生自身が「デザイン学の創設」に深くかかわる、あるいは自身の学位論文研究において「デザイン学の意識的な利用」を促進することなどを必然化させるような仕組みの導入を検討し、プログラムの二つの柱である「分野を横断する問題発見・解決のための理論と手法の開発」と「グローバルに活躍する人材の育成」をより有機的に推進されることを期待する。また、学生達には「博士なのだから、分野は異なっても、形而上学的意味でデザイン学のアーキテクト/エバンジェリストであってほしい」と助言した。 ・すべてのプログラム担当者が協働して「グローバルレベルのデザイン学」の開拓を更に強力に推進するとともに、現在の自己評価中心の「デザインイノベータインデックス」を改良して「プログラムの趣旨に沿った学生の成長」を客観的に計測する評価インデックスを開発し、リーダー育成のビジョンを学生及び社会に対して力強くアピールすることが望ましい。 			